

地方小出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
年間	1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町 20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

作曲家・林光さんから託された“宿題”

♪ # ♭



文・大原哲夫

編集室開設6年

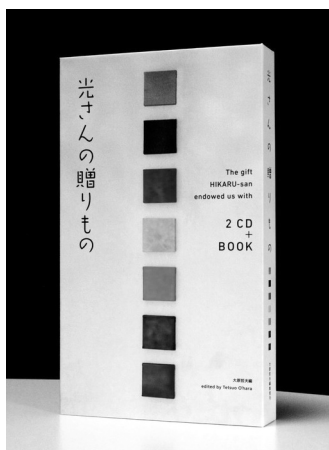
長年勤務してきた出版社(小学館)を満期退社したあとも、本の街・神保町は去りがたく、神保町の片隅に大原哲夫編集室を作ってから今年で6年になる。

出版社在職中、30代は、江戸・東京博物館でいま開催中のモース・コレクションの日本への初めての紹介となった『百年前の日本』(1982年刊、この本は31年後の今も現役で版を重ねている)など一連の美術・歴史関連の書籍の編集を、40代からは、『モーツァルト全集』『バッハ全集』『武満徹全集』そして『林光の音楽』と内外の作曲家のほぼ全作品を網羅するCDと書籍による音楽全集を作ってきた。そんなこともあってか、最近ではすっかり音楽が私の仕事の中心となってしまった。

2008年に編集室を開設してからも、それまでお世話になった多くの方から、私に本を作ってほしいとの連絡をいただいた。それは編集者冥利に尽きる、身に余るとてもありがたいことだった。吉田秀和さんに頼まれた『CD版永遠の故郷』もその一つだ。吉田さんの最後の仕事になったこの本は、昨年6月、集英社から刊行された。

林光さんから届いた一通の手紙

吉田さんからの依頼があった1ヵ月ほど前、2009年12月末には、作曲家の林光さんから1通の手紙をいただいていた。そこには、驚いたことにこんなことが書いてあった。



「光さんの贈りもの」— 林光、ピアノを弾きながらの講演と未完自叙伝/大原哲夫編/定価 本体3500円+税/ISBN978-4-907523-00-B/判型 B5変形 144ページ CD 2枚 (各約80分収録) 函入り/発行 大原哲夫編集室/発売 2013年10月22日

「ところで、と唐突ですが、大原さんにぼくの本をつくっていただけないかと、いくらか、いやかなり切実にこの頃夢見ています。年が明けたらいちど、『夢』をきいていただく機会をつくってくださいませんか」

「夢」とは、いったい何だろうと思い、2010年のお正月休みの後、私は林さんの事務所をお訪ねした。林さんは「こんなものを書いたんです。できれば、いつか本に出して欲しいんですが」と、奥からA4の用紙に打ち出された原稿を持ってこられた。それは自らの幼少の頃からの歴史を問い、作曲家林光誕生に至るQ&Aの形で描かれた未完の自叙伝ともいうべきものだった。

出版社勤務時代、最後の仕事が『林光の音楽』(CD 20枚+書籍)だったの

だが、この本の中で、林さんは私のインタビューを受けて、ご自身の作曲手法や日常生活の様々な事について答えられた。どうも、このインタビューがとても気に入られたらしく、その後、ご自分でQ&Aの形で自叙伝を書かれたようだ。

この茶目っ気たっぷりの原稿は、戦中、戦後日本の音楽史を補い、日本の文化史を語る貴重な証言でもあった。「ただ、1冊の本にするには少し短すぎです」と、遠慮なく私が申し上げると、林さんも「そうなんだ」と言って笑っていらした。「この続きも含めて、少し打ち合わせをして原稿完成させたいですね」と、私は林さんの原稿をお預かりし帰途についた。

ところがその後、林さんも私も目の前の仕事に追われてしまい、この未完の原稿をお預かりしたまま、時間だけが経過してしまった。

その間にはこんなこともあった。2011年あの3・11の後、文化会館小ホールで新藤兼人監督の名作「裸の島」を含む林光『3つの映画音楽』が初演された。これは林さんをお願いをして作曲してもらったものだ。林さんは「こういう時こそ演奏会をやるべきだ」という方だから、中止になるのではとの主催者の心配をよそに、3月24日文化会館の小ホールでは、「裸の島」の弦楽アンサンブル版が鳴り響いたのだった。演奏前、プレトークで林さんと舞台上上がったのも今となっては懐かしい。こんなことで林さんとは何度もお目にかかっていたのだが、原稿のほうはすっかり延び延びになってしまった。

それでも、2011年の夏、林さんが「原爆小景」を指揮される恒例の「8月のまつり」の演奏会場で、「あの原稿そろそろ本にしましょう」と私が申し上げると、林さんは「僕はまだまだ元気だから、急がなくてもいいですよ」と

おっしゃられた。林さんは優しい。私が吉田秀和さんの本や、その他いろいろ抱えていて身動きが取れないことをよくご存知だったのだ。

林さんが自宅近くで転ばれ、緊急手術されたのは、その2ヵ月後だった。手術後の容体は芳しくなく、私は無事回復されることをひたすら祈るばかりだった。林さんは意識が戻らないまま、翌2012年の1月に亡くなられた。

茫然自失、私はしばらく何も手につかなかった。以来、ずっと手元にあった原稿は、私にとって林さんから託されと宿題とでもいうべきものだった。原稿は未完、林さんはもういない、でも、これはどうしても、世に出さなくてはならないと思っていた。

初の自社出版、『光さんの贈りもの』

40年近く、100冊を優に超える本を企画・編集してきたが、自分で発行、

発売することはなかった。物流、倉庫、宣伝、販売、発送と、それがいかに困難であるかは、長年、出版業界で暮らしてきた身にはよくわかってきたからだ。しかし、今度ばかりは違った。林さんに託された宿題は、最後まで自分でやろう。これは自費出版、いや自社で出版する。そう覚悟が出来る、急に気が楽になり、いろいろなアイデアも湧いてきた。林さんのQ&Aの原稿には、別にCDをつけよう。林さんがピアノを弾きながら講演された、なかなかすばらしい録音がある、それをCD化しよう。そうすれば、林さんの声もピアノ演奏も聴ける。CDのセットは本の後にビニール袋を貼り付けたような安易なものではなく、造形的に見ても美しいものを創る。林さんがせっかく私に本を作ってほしいと頼んだのだから、その期待には応えなくてはいけない。

かくして出来上がったのが、『光さ

んの贈りもの』である。こんな私の思いを理解して下さった、多くの友人の協力を得て、この本の定価は原価ギリギリに抑えることができた。当初は、演奏会等でのまったくの手売りを考えていたが、ISBNコードをとって、川上さんの地方・小出版流通センターの口座を開設することにした。いま、全国のエリスさんの音楽を愛する多くの人たちから、毎日のように注文が届いている。朝日新聞、東京新聞など各紙で紹介して下さるといふ。

「すこし時間がかってしまいました、Q&A本にしました」

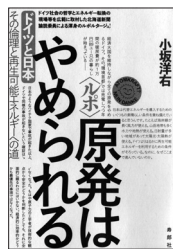
林さんの誕生日の前日10月21日、林事務所の林さんの写真の前に、この本を届けることができた。どこかで、林さんがこの本を見て下さるだろうか。

(おおはらてつお/エディター、造形作家)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『ルポ>原発はやめられる ドイツと日本 その倫理と再生可能エネルギーへの道』●小坂洋右著



チェルノブイリ原発事故から6年後の1992年、国土の22%を放射能で覆われたベラルーシを訪ねた著者は、日本こそ世界で一番放射能の恐ろしさを分かっているはずと言われ虚を衝かれる。原爆も原発事故も同じであることを深く考えてこなかったからだ。それから20年後の衝撃。いち早く脱原発に転換したドイツ。なぜそれが可能であったのか。社会学者、連邦議会議員、電力会社、

環境団体、ジャーナリストを訪ね、「人類は社会的、倫理的、生態学的に原発を許容できるのか」との根源的な議論がされたことを知る。制度設計さえきちんとすれば、我が国でも必ずや脱原発が可能であることを確信させてくれる感動のルポルタージュである。

◆1785円・四六判・235頁・寿郎社・北海道・2013/8刊・ISBN978-4-902269-61-1

『探偵小説の街 神戸』●野村恒彦著



日本の探偵小説史に数多く登場する神戸。旧外国人居留地や異人館など、探偵小説の舞台としても事欠かないだけではなく、横溝正史を代表として西田政治、山本禾太郎など神戸出身の作家も多し。

神戸に生まれ、現在も神戸在住の著者が小説の歴史と神戸の関わりについて詳細に語り、ミステリー作品を紹介する。揺籃期として江戸川乱歩の

『探偵小説四十年』を取り上げ、往年の雑誌「新青年」や近年再評価された「ぷろふいる」も紹介。また、著者の取材記事がきっかけとなり神戸市中央区に横溝正史の生誕地碑が建立されたなど、著者の果たした役割は大きい。探偵小説をこよなく愛する熱い思いが伝わってくる。

◆1680円・A5判・198頁・エレガントライフ・兵庫・2013/10刊・ISBN978-4-906369-01-0

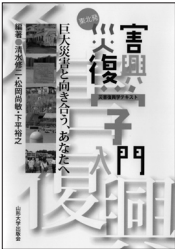
『2010 チェルノブイリの夏 —放射能汚染により隔離された街の24年後』 ●前田俊明著



アメリカ・スリーマイル島原発事故(1979年)の7年後、1986年4月26日、旧ソ連(現ウクライナ)チェルノブイリ原子力発電所で大規模な爆発と火災が発生した。原発から4キロの距離にある人口5万のプリピャチは、豊かな緑に囲まれた先進的な街であった。事故後、放射線高濃度汚染地区となり、以後完全な立ち入り禁止が続いている。その

外側30キロの立ち入り禁止区域には戻ってきている人もいる。本書は、原発事故後24年経過したプリピャチの無人の街と、その外側30キロエリア、そしてチェルノブイリ近郊の下流にある街の風景から構成した72葉の写真集である。無言の写真が語る動かせない事実は私たちを圧倒する。
◆1890円・192mm×210mm判・80頁・春夏秋冬叢書・愛知・2013/8刊・ISBN978-4-901835-40-4

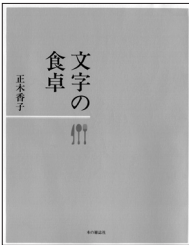
『東北発 災害復興学入門 —巨大災害と向き合う、あなたへ』 ●清水修二著



本書には災害からの復興事業の制度や被災者の心のケア、あるいは災害に強いコミュニティづくりなど、災害への備えから復興までの様々なことが東日本大震災の事例を中心にまとめられている。特に原子力災害に関しては三章が割かれており、震災以降の原子力災害を意識せざるを得ない状況を感じさせる。その中でも水俣病と原発事故を重ね合わせた第六章は、双方の共通点を示し、

経済的なことだけでは測りえない失われたものの大きさを訴えて印象深い。さまざまな災害と付き合い合っていくを得ない日本で暮らしていく上で、本書の指し示す課題は私たちひとりひとりの考える指針ともなってくれるだろう。
◆840円・A5判・243頁・山形大学出版会・山形・2013/9刊・ISBN978-4-903966-17-5

『文字の食卓』 ●正木香子著



著者が子どもの頃のこと、テレビのテロップで使用されていた文字が、ちょうど読んでいた漫画の一コマにあった文字と雰囲気が似ていたので、「ねえ、これ、仲間だよ」と姉に言ってみたら、姉は目を丸くして「ほんとだ、よく気づいたね」と答えたという。著者の文字好きはどうやら生まれつきのものらしい。絶対音感ならぬ〈絶対文字感〉の持ち主と言えそうだ。本書は、昨今DTP

に取って代わられつつある写植用書体を紹介しているのだが、それらの文字と使用された作品そしてそれらの作品と出会った頃の著者の記憶の中の淡い情景とが、一体となって引き出されているのが特徴。一つの書体の誕生から盛衰にいたる物語も興味深い。
◆1890円・A5変形判・255頁・本の雑誌社・東京・2013/10刊・ISBN978-4-86011-247-9

地小出版 流通センター ジャンル別 新刊案内

2013年10月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額(税込)表示です。

【雑誌】

- ◆あおり草子 No. 219 佐藤 史隆編 A4 48頁 600円 企画集団ぷりずむ [青森] 978-4-503-19991-1 13/10
- ◆様名団 8号 富沢 智編 A5 86頁 601円 様名まほろば出版 [群馬] 978-4-503-19988-1 13/09

- ◆GREEN REPORT 406 廣瀬 仁編 A4 192頁 2800円 地域環境ネット [埼玉] 978-4-905457-38-1 13/10
- ◆ほぼづゑ 第78号 福原 義春編 A5 147頁 500円 三好企画 [千葉] 978-4-938740-87-0 13/10
- ◆ママともぶらす 東京ベイ・千葉版 No. 55 市川 恵美子編 A4

- 87頁 600円 明光企画 [千葉] 978-4-503-20008-2 13/10
- ◆子どもと昔話 No. 57 小澤昔ばなし研究所編 A5 79頁 830円 小澤昔ばなし研究所 [神奈川] 978-4-902875-57-7 13/10
- ◆子どもと読書 402号 親子読書地域文庫全国連絡会編 A5 40頁 550円 親子読書地域文庫全国連絡会 [神奈川] 978-4-907376-02-4 13/10
- ◆かまくら春秋 No. 521 田村 朗編 B6 92頁 290円 かまくら春秋社 [神奈川] 978-4-7740-0606-2 13/09
- ◆道 No. 178 木村 郁子編 A4 74頁 1200円 どう出版 [神奈川] 978-4-904464-50-2 13/10
- ◆くらしと教育をつなぐ We No. 186 稲邑 恭子編 中村 泰子、冠野 文編 A5 80頁 800円 フェ

売行良好書

期間：2013年10月16日～11月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『つるかめ食堂』1470円・ベターホーム出版局 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (3)『昭和の貌』2310円・弦書房 (4)『フリーエの冒険 新装改訂版』3675円・言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ (5)『万象の訪れ』2520円・弦書房 (6)『光さんの贈りもの』3675円・大原哲夫編集室 (7)『罨師 片桐邦雄』1680円・鉦脈社 (8)『図書館がまちを変える』1470円・東京創作出版 (9)『探偵小説の街 神戸』1680円・エレガントライフ (10)『ビーチコーミングをはじめよう』1890円・木星舎 (11)『赤とんぼ』1890円・長崎文献社 (12)『出雲の山城』1890円・ハーベスト出版 (13)『どんぐりの図鑑 フィールド版』1260円・トンボ出版 (14)『西荻窪の古本屋さん』1575円・本の雑誌社



[三省堂書店神保町本店 センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『東京かわら版 11月号』420円・東京かわら版 (2)『夜想 #少女』1260円・ステュディオ・パラポリカ (3)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社 (4)『奥多摩東部登山詳細図 全88コース』800円・吉備人出版 (5)『西荻窪の古本屋さん』1575円・本の雑誌社 (6)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク (7)『14 ニコリのペンパ』980円・ニコリ (8)『北条氏年表』2625円・高志書院 (9)『出雲の山城』1890円・ハーベスト出版 (10)『万象の訪れ』2520円・弦書房

[ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『北海道いい旅研究室14 book1』690円・海狗舎 (2)『罨師 片桐邦雄』1680円・鉦脈社 (3)『使命』1260円・岩手日報社 (4)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク (5)『歯科詩集』1260円・かまくら春秋社 (6)『生きづらさを超えて』1470円・吉備人出版 (7)『神意』980円・読書館 (8)『赤とんぼ』1890円・長崎文献社 (9)『出雲の山城』1890円・ハーベスト出版 (10)『ともにある 3』1890円・木星舎

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
 URL : <http://neil.chips.jp/chihosho/> ツイッター公式アカウント : @local_small

トピックス — ★★

▼雑誌「広告批評」を出していたマドラ出版の天野祐吉さんの突然の訃報には驚き、脱力感のようなものがあります。先週まで、テレビやラジオでその顔や声を聞いていたからでしょうか？広告批評は初期は広告会社・マドラの発行で、途中から出版専門のマドラ出版という別法人から発行されるようになりました。初期はほとんど東京を中心とした読者層でしたが、テレビやラジオが、東京のキー局から地方局へと系列化されるとともに、全国の読者に広がっていったように思います。今は弊害と言われることも多くなった、地方都市の東京化(均一化)が促進・定着していった時代と共に歩んだと言えます。追悼の報道や番組で言われるような、日本で新しいスタイルの批評の世界を作った人=コラムニストと呼ばれた天野さんでした。

広告批評の創刊から廃刊まで取り扱わせていただき、それが作り出す批評の反響にずっとつき合った体験は貴重なものでした。マドラ出版廃業後、天野さんが個人的にはじめた「天野祐吉作業室」の刊行物、「島森路子インタビュー集1 ことばを尋ねて」「島森路子インタビュー集2 ことばに出会う」「可土和式」「北風とぬりえ」の4点は引続き取り扱いますのでよろしく。

〈地方・小出版流通センター通信 No.1314 (2013/10/30) より〉

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX : 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

営業の
ごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

